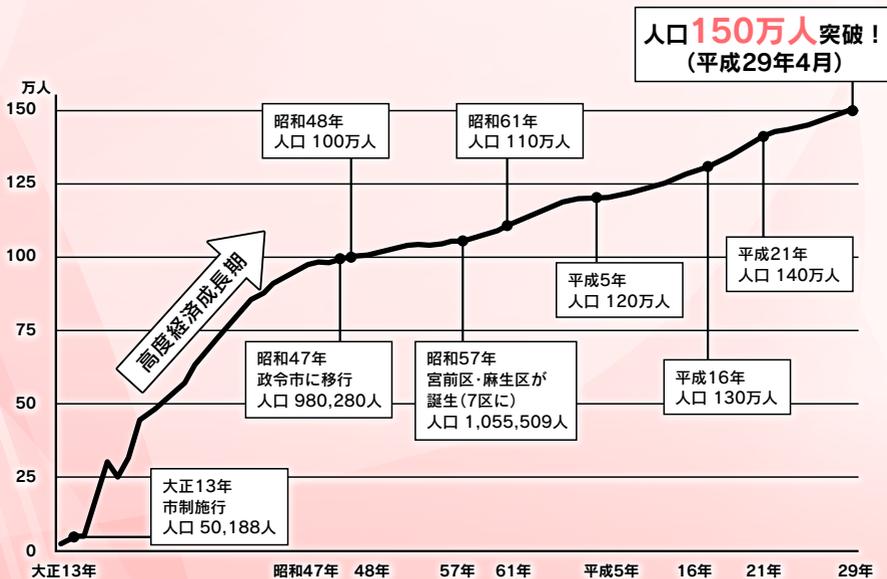


# 川崎市の人口が 150万人を突破しました

平成29年4月に川崎市の人口が150万人を超えました。そこで、「人口」にスポットをあて、これまでの推移や現状を年齢別や区別、町丁別などさまざまな角度からまとめました。



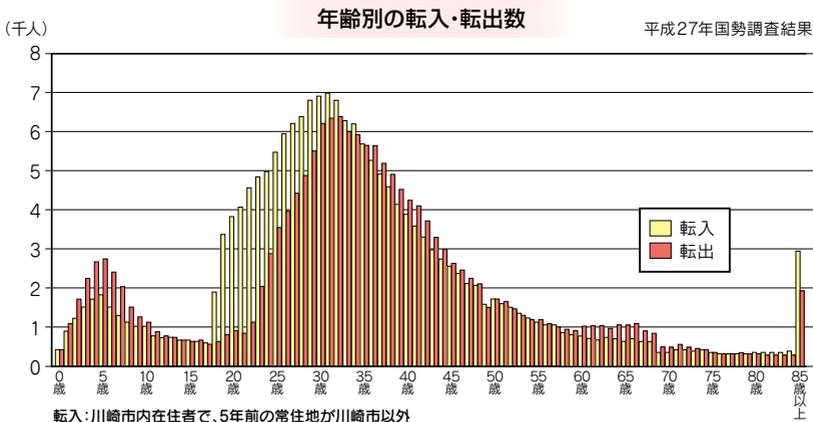
## 人口150万人へのあゆみ

## ●人口の推移と年齢別転入・転出数

平成29年4月に川崎市の人口は150万人を突破しました。

川崎市は大正13年に人口約5万人でスタートし、昭和5年には10万人、昭和15年には30万人になりました。終戦直後の昭和20年12月には20万人まで減少しましたが、その後、高度経済成長期（昭和30年頃～40年代中頃）に入ると年間数万人の勢いで増加し、昭和32年には50万人を超え、政令指定都市に移行した翌年の昭和48年に100万人を超えました。その後も昭和61年に110万人、平成5年に120万人、平成16年に130万人、平成21年に140万人と人口増加が続き、この平成29年4月に150万人を突破しました。

最近の人口増加の要因のひとつとして、10代後半から30代前半の若い世代の転入超過があげられます。

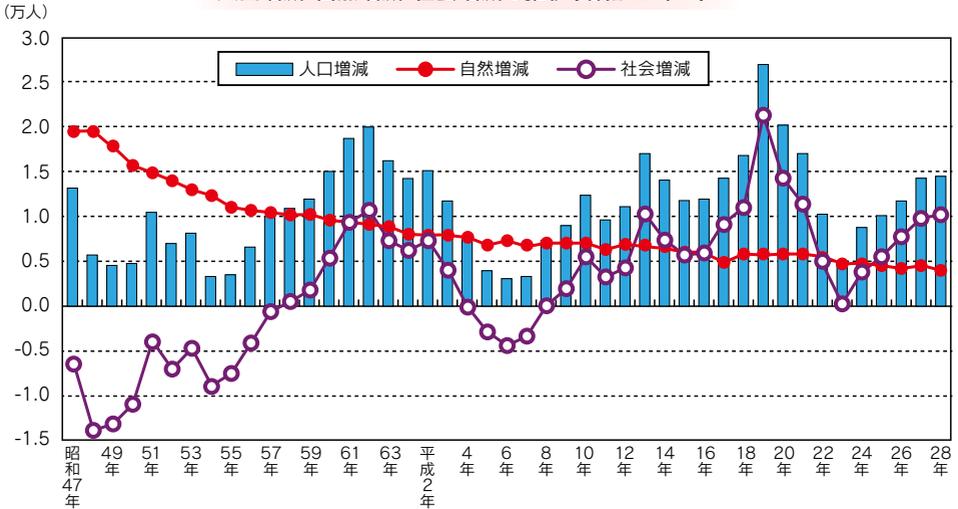


## ●人口動態の推移

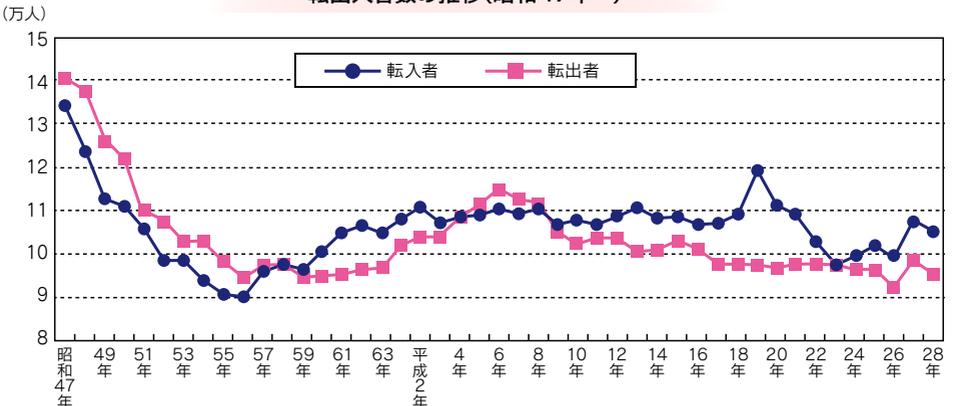
人口の増減要因には、出生と死亡による人口の動きである「自然増減」と転入と転出による人口の動きである「社会増減」があります。川崎市の人口増減の推移をみると、自然増減は増加数が縮小傾向にあるものの増加が続いていますが、社会増減は平成9年以降、転入が転出を上回り、20年連続で増加しています。このことから社会増減が本市の人口増加の大きな要因であることが分かります。

平成28年は、自然増加数が4,167人、社会増加数が10,274人、合計14,441人の人口増加となっています。

人口増減・自然増減・社会増減の推移(昭和47年～)



転入者数の推移(昭和47年～)



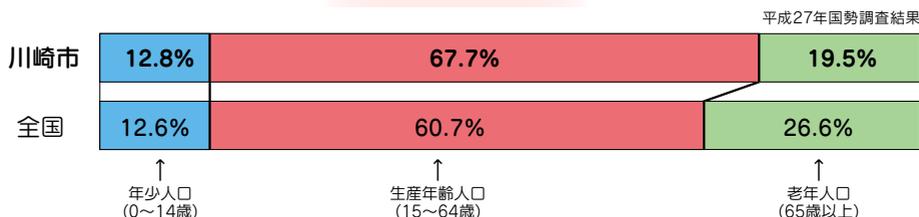
## 2

# 人口の年齢構成及び世帯

川崎市の人口を年齢3区分別で見ると、全国に比べ生産年齢人口(15～64歳)の割合が多く、老年人口(65歳以上)の割合が少ないことがわかります。また、平均年齢は全国に比べ3.6歳若い42.8歳で、区別で見ると中原区が最も若い40.6歳となっています。1世帯当たりの人員は、単独世帯が増加した影響で減少が続き、平成27年国勢調査結果では、1世帯当たり2.11人となっています。

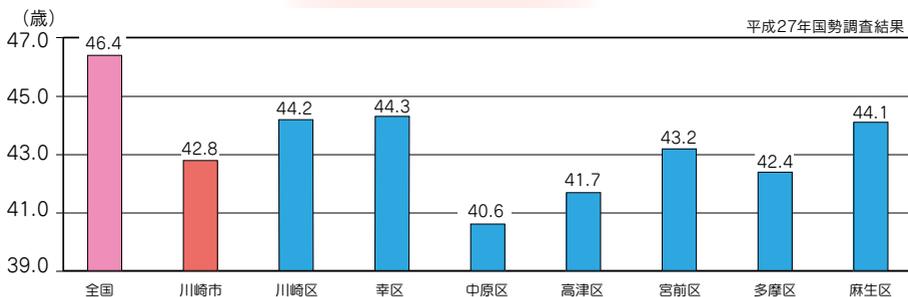
- 生産年齢人口(15～64歳)の割合が高く、老年人口(65歳以上)の割合が低い

年齢3区分別人口構成比



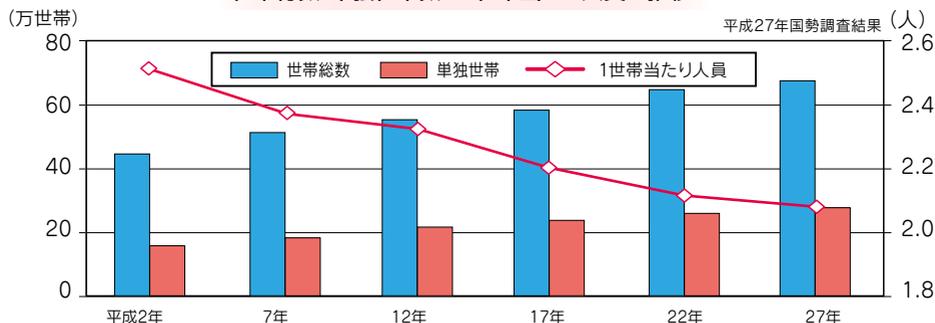
- 市民の平均年齢は42.8歳

川崎市及び各区の平均年齢



- 1世帯当たり人員が減少

世帯総数・単独世帯数と1世帯当たり人員の推移



### 3

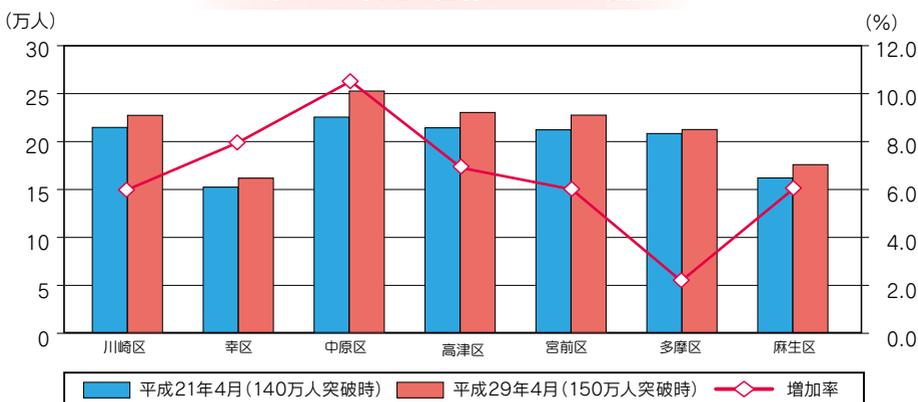
## 区ごとの人口の推移と転入前・転入後の住所地別移動人口

区ごとにみると、人口が140万人を突破した平成21年から150万人を突破した平成29年にかけて、全ての区で人口が増加しています。そのなかでも中原区の人口増加率が最も高くなっています。要因としては、交通利便性の向上や武蔵小杉駅周辺の再開発などがあげられます。

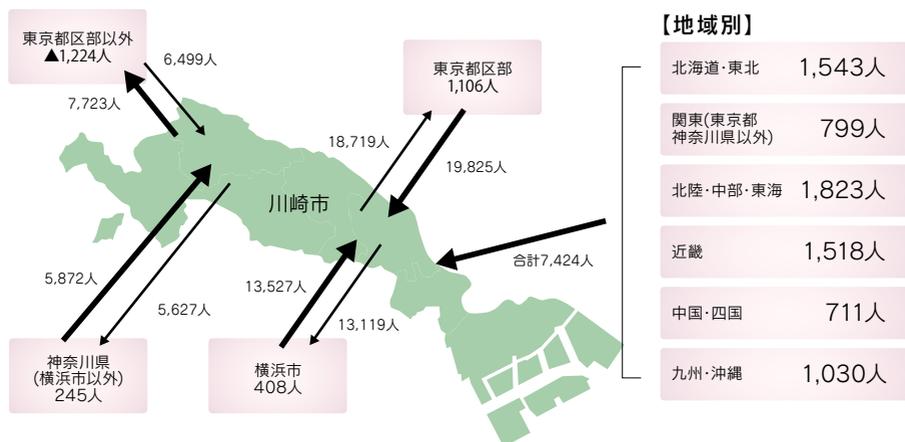
住所地別移動人口をみると、全国を6つのブロックに分けた地域別では全ての地域で転入超過となっています。川崎市周辺では、特別区以外の東京都に対しては転出超過となっていますが、それ以外からは転入超過となっています。

### ●140万人突破時に比べ全ての区で人口が増加

140万人突破時からの区別の人口・人口増加率



### ●住所地別移動人口(平成28年)

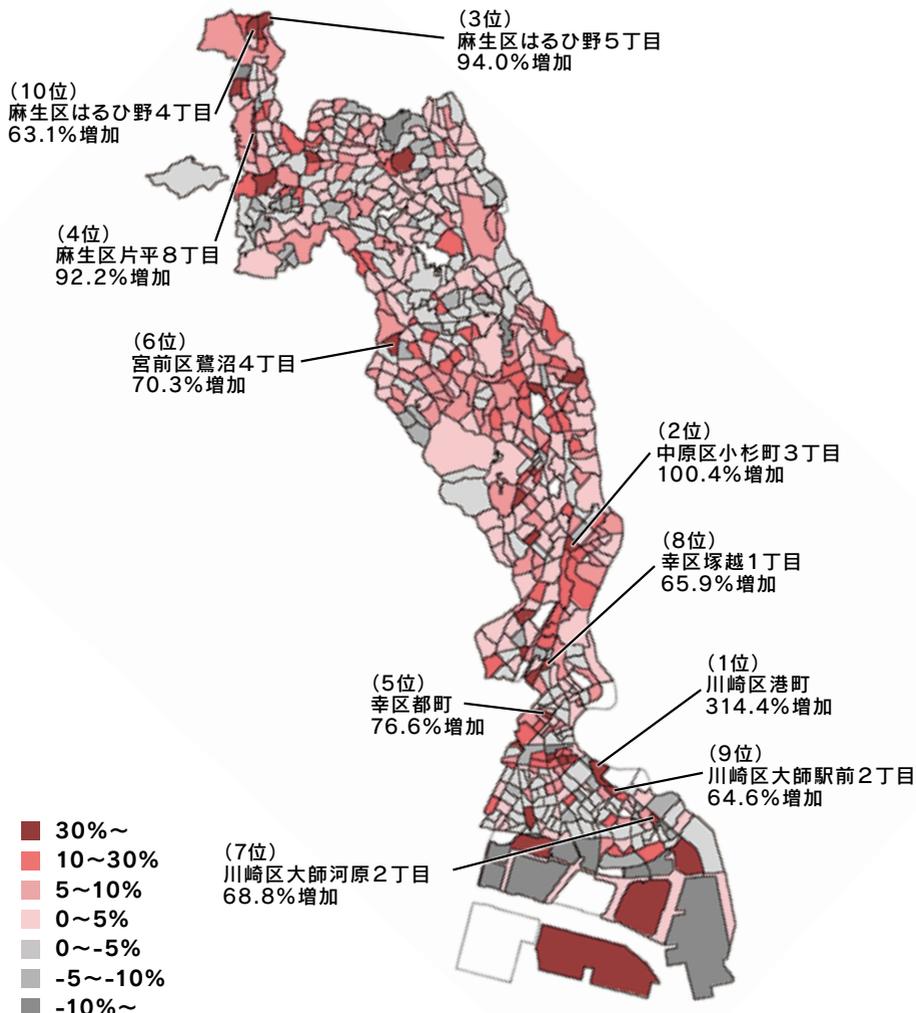


## 4

## 町丁別にみる人口増加の状況

最近5年間の人口増加率を町丁別で見ると、宅地造成などの影響を受け、マンションや戸建てが多く建てられたところが高い増加率となっています。最も人口増加率が高いのは川崎区港町の314.4%、次いで中原区小杉町3丁目の100.4%、麻生区はるひ野5丁目の94.0%となっています。また、増加数では、最も多いのが川崎区港町の3,474人、次いで中原区市ノ坪の2,025人、中原区小杉町3丁目の1,931人となっています。

## ● 地図でみる町丁別の人口増加率(平成24年～29年)



※平成24年3月以降に住居表示が実施された地域については、町丁目界が一部、現在と異なっています。  
 ※平成24年3月以降に住居表示が実施された区域については、区域内の町丁を合算し算出しています。

## ●最近5年間の町丁別の人口増加率ランキング –トップは港町–

住民基本台帳人口(各年3月31日現在)

順位	町丁名	区	平成24年	平成29年	増加数	増加率(%)
1	港 町	川 崎	1,105	4,579	3,474	314.4
2	小杉町3丁目	中 原	1,924	3,855	1,931	100.4
3	はるひ野5丁目	麻 生	497	964	467	94.0
4	片平8丁目	麻 生	129	248	119	92.2
5	都 町	幸	398	703	305	76.6
6	鷺沼4丁目	宮 前	1,956	3,331	1,375	70.3
7	大師河原2丁目	川 崎	1,125	1,899	774	68.8
8	塚越1丁目	幸	1,103	1,830	727	65.9
9	大師駅前2丁目	川 崎	1,083	1,783	700	64.6
10	はるひ野4丁目	麻 生	1,111	1,812	701	63.1
11	小田栄2丁目	川 崎	3,300	5,175	1,875	56.8
12	塚越3丁目	幸	1,907	2,898	991	52.0
13	北加瀬2丁目	幸	2,024	2,997	973	48.1
14	砂子2丁目	川 崎	733	1,078	345	47.1
15	片平7丁目	麻 生	391	570	179	45.8
16	宮 本 町	川 崎	764	1,110	346	45.3
17	下小田中5丁目	中 原	1,692	2,404	712	42.1
18	片平6丁目	麻 生	419	581	162	38.7
19	二子1丁目	高 津	3,286	4,530	1,244	37.9
20	堤 根	川 崎	190	261	71	37.4
33	市 ノ 坪	中 原	8,275	10,300	2,025	24.5

※人口100人以上の町丁を対象としています。

## ●人口増加率、出生率、男性比率が大都市で最も高い

①②東京都、各市HP

③～⑧平成27年大都市比較統計年表

		①人口(人)		②対前年同月人口増加率(%)		③出生率(%)		④死亡率(%)	
1	東京都区部	9,443,321	川崎市	1.03	川崎市	1.02	静岡市	1.12	
2	横浜市	3,733,807	東京都区部	1.00	福岡市	0.97	北九州市	1.11	
3	大阪市	2,709,167	福岡市	0.89	熊本市	0.96	大阪市	1.07	
4	名古屋市	2,309,753	さいたま市	0.89	岡山市	0.91	新潟市	1.02	
5	札幌市	1,961,473	名古屋市	0.39	広島市	0.91	神戸市	1.01	
6	福岡市	1,562,568	大阪市	0.37	東京都区部	0.90	浜松市	1.00	
7	神戸市	1,534,061	札幌市	0.25	名古屋市	0.88	堺市	0.99	
8	川崎市	1,500,050	広島市	0.21	さいたま市	0.87	京都市	0.96	
9	京都市	1,473,110	千葉市	0.14	浜松市	0.87	名古屋市	0.93	
10	さいたま市	1,282,764	仙台市	0.11	仙台市	0.85	岡山市	0.92	
11	広島市	1,197,655	横浜市	0.08	大阪市	0.85	札幌市	0.91	
12	仙台市	1,084,616	岡山市	0.05	堺市	0.85	熊本市	0.91	
13	千葉市	974,759	相模原市	-0.03	横浜市	0.83	広島市	0.85	
14	北九州市	952,129	浜松市	-0.16	北九州市	0.83	千葉市	0.83	
15	堺市	835,351	京都市	-0.18	神戸市	0.79	東京都区部	0.83	
16	新潟市	805,098	熊本市	-0.21	千葉市	0.77	横浜市	0.83	
17	浜松市	795,403	神戸市	-0.23	相模原市	0.77	相模原市	0.80	
18	熊本市	738,827	堺市	-0.28	新潟市	0.77	仙台市	0.79	
19	相模原市	721,849	新潟市	-0.38	京都市	0.77	さいたま市	0.79	
20	岡山市	720,837	静岡市	-0.41	札幌市	0.75	福岡市	0.73	
21	静岡市	699,658	北九州市	-0.59	静岡市	0.74	川崎市	0.72	
		平成29年5月1日	平成29年5月		平成27年出生数÷人口 (平成27年10月1日現在)×100		平成27年死亡数÷人口 (平成27年10月1日現在)×100		

		⑤転入率(%)		⑥転出率(%)		⑦婚姻率(%)		⑧性比(女性100人に対する男性の数)	
1	大阪市	7.08	大阪市	6.30	東京都区部	0.72	川崎市	103.1	
2	川崎市	5.99	熊本市	5.79	川崎市	0.70	相模原市	100.4	
3	熊本市	5.79	川崎市	5.21	大阪市	0.66	横浜市	99.3	
4	福岡市	5.38	福岡市	4.58	福岡市	0.64	千葉市	98.7	
5	さいたま市	4.75	仙台市	4.22	名古屋市	0.60	さいたま市	98.5	
6	仙台市	4.47	さいたま市	4.05	仙台市	0.56	浜松市	98.3	
7	名古屋市	4.35	千葉市	4.02	札幌市	0.55	名古屋市	97.6	
8	千葉市	4.31	名古屋市	3.87	岡山市	0.54	東京都区部	97.1	
9	相模原市	3.94	相模原市	3.71	熊本市	0.53	仙台市	95.0	
10	横浜市	3.87	横浜市	3.65	広島市	0.53	静岡市	94.9	
11	岡山市	3.79	岡山市	3.44	さいたま市	0.53	大阪市	93.8	
12	東京都区部	3.75	広島市	3.36	横浜市	0.53	広島市	93.5	
13	京都市	3.60	京都市	3.34	京都市	0.52	新潟市	92.6	
14	広島市	3.56	神戸市	3.22	北九州市	0.52	岡山市	92.6	
15	札幌市	3.38	堺市	3.19	浜松市	0.51	堺市	92.1	
16	神戸市	3.38	札幌市	3.04	堺市	0.50	京都市	90.2	
17	堺市	3.17	東京都区部	3.03	神戸市	0.49	神戸市	89.7	
18	静岡市	2.70	北九州市	2.86	静岡市	0.48	福岡市	89.5	
19	浜松市	2.68	静岡市	2.78	相模原市	0.48	北九州市	89.0	
20	北九州市	2.54	浜松市	2.63	千葉市	0.47	熊本市	88.8	
21	新潟市	2.44	新潟市	2.37	新潟市	0.45	札幌市	87.4	
		平成27年転入数÷人口 (平成27年10月1日現在)×100	平成27年転出数÷人口 (平成27年10月1日現在)×100		平成27年婚姻届出件数÷人口 (平成27年10月1日現在)×100		平成27年10月1日現在 男性人数÷女性人数×100		